

抜本的改革と イノベーション・マネジメント による経営革新



令和2年2月17日

企業局



1

1 企業局のミッション

廉価で安全・安心な用水の
将来にわたる安定供給

【課題】

- 延べ730kmの重厚長大な管路網にかかる莫大な更新費用
マスタープランでの事業費削減
7,304億円 **4,542億円** (2,762億円)
- 大口ユーザーの使用廃止など
給水収益の更なる減少
水源転換、水を使わない業態へ転換



さらなる**抜本的な対応が必要**



2

2 企業局が目指すもの

企業局がめざすものは、
「経営改善」ではなく「経営革新」へ

1 将来に向けた更なる抜本的改革

バックカスティングにより更新費用を更に 1,000億円

(現在) 4,500億円
45億円 / 年



(改革) 3,500億円
35億円 / 年
(100年DCIP使用時)

2 イノベーション・マネジメント

トータルコスト削減、収益増大で 毎年4億円の収支改善

(R1) タスクフォースの取組
2億4,800万円



(R2~) 更に 1億5,000万円
毎年 4億円

3

3-1 抜本的改革

更新費用 1,000億円に向けたChallenge

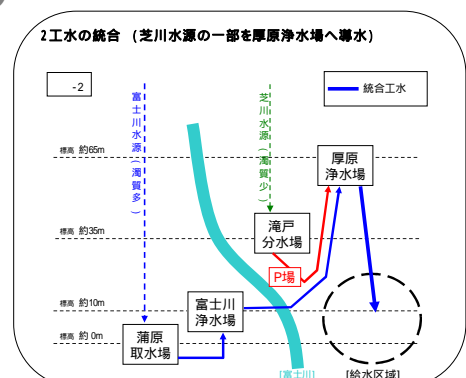
Challenge1

企業局初となる用水供給の運用再編 150億円

- ・ 富士川・東駿河湾の2工業用水道の運用再編
- ・ 榛南水道と大井川広域水道の統合協議

水源、施設運用、管路施設を見直し
更新・管理のトータルコスト削減

- ・ 更新のための補助金を
新たな手法で獲得
経済産業省への継続的な職員派遣



4

3-1 抜本的改革

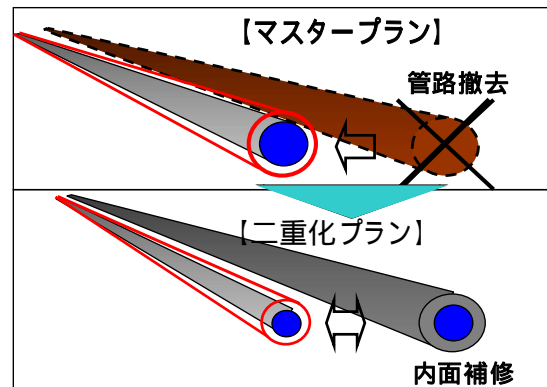
Challenge 2

発想転換による管路整備手法の革新

745億円

- ・ 新設管と既設管の併用（二重化）
更なるダウンサイジング
内面補修して再利用
旧管の撤去費用の削減

（参考：公益財団法人水道技術研究センター
「Reinbowプロジェクト」他）



Challenge 3

民間活力の導入

105億円

- ・ 民間資金を導入した施設更新

浄水場設備の運転及び維持管理のトータルコスト削減
（PFI、DB、DBM（メンテ含む）、ESCO（リース）等）

5

3-2 イノベーション・マネジメント

コスト 4億円/年に向けた革新的経営

タスクフォースの取組（R1）

2億4,800万円

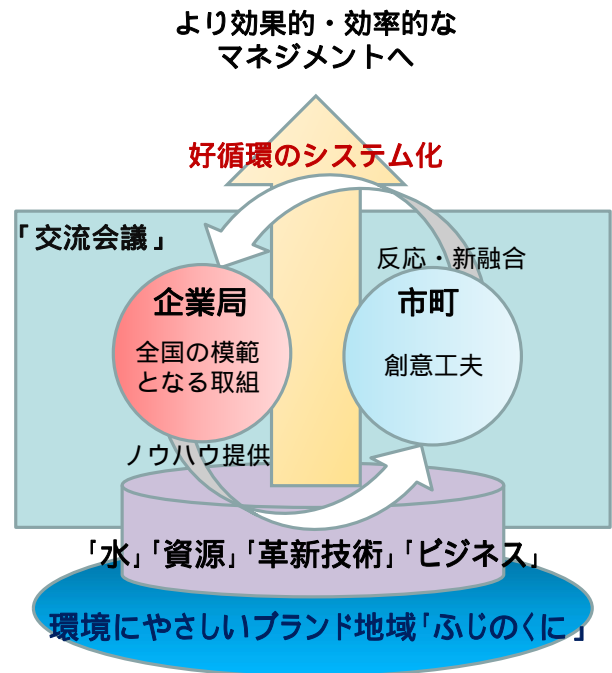
新たな取組（R2から毎年）

- ・ 包括、長期契約の積極活用 **工事費 4,000万円**
- ・ 漏水判別法の活用で市町から検査受託 **収益300万円**
- ・ 大学、研究機関から活用案のオファー
浄水発生土の販路拡大 **収益1,800万円**
- ・ 事業債の55億円追加運用 **運用益1,400万円**
- ・ 発生土の産廃外扱いの取組 **処理費 1億1,000万円**
- 他、**全国の模範となる取組で合計 1億5,000万円超**

6

4 広報展開による好循環のシステム化

1. 「全国の模範となる取組」を
ノウハウ集にまとめる
新聞、メディア、官庁速報に
掲載された取組
2. 市町と「交流会議」を開催
県内市町の公営企業担当者と
創意工夫を教示し合う
3. 好循環を創るシステム化
好循環が起こり、より効果的
効率的なマネジメントへ



市町とともに、更なるイノベーションを

7

5 企業局のビジョン

命の世紀、環境の世紀のモデルとなる
環境にやさしいブランド地域の形成への貢献

「水循環共生圏」の創出
(スーパー・ランドスケープリージョン)

環境 × 資源 × 技術革新 × ビジネス

SDGsのフロントランナー

〔取組姿勢〕

現場主義を貫き果敢に挑戦

：現状を打破する覇気、スピリッツ、使命感

融合と新発想

：全国の模範となる取組、創意工夫のブラッシュアップ

8